

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【仲本小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、基礎学力の定着を持続するために、仲本小学校の学びスタイルをさらに継続させて経過を観察、考察する。 どの教科においても、活動と知識(身に着けたい力)が結びつくように意図的な学習を行い、(実生活と結び付けることで関連付けさせる) 授業以外にも、基礎学力を定着する時間を確保し、既習事項の復習等を行っていく。 	
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 算数では、図と式を関連させて学ぶことを徹底させるような、授業づくりを努めたい。また、そのような授業の中で、計算だけでなく、なぜそうなるかを理解し説明する時間を確保していきたい。 国語の説明文教材の学習に力を入れる必要がある。その中で、主語、述語を意識した作文を書くように促したい。 表現力向上のために、ブックトーク等を活用して、読書意欲を引き出させたい。 	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <学習上の課題> 全体的に知識・技能の習得状況は優れているが、個人差があり、個別の支援が必要な児童もいる。 <指導上の課題> リーディングDXスクール事業により、指導方法の改善や、ICT活用能力の向上が必要である。 	⇒ 個別の支援において、「ドリルパーク」等を活用するなど、個別対応ができるようにする。【毎週金曜日の基礎学力タイム】 校内研修において、一人一授業を行うなどし、教員の指導力向上を図る【年度内一回の公開授業】
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <学習上の課題> 児童自ら課題をみつけれ、課題解決する方法をみつけたりする、自己調整学習能力の向上が必要である。 <指導上の課題> 教員における指導方法のアップデートや、児童が思考・判断・表現する機会を設けるなどの授業改善。 	⇒ 毎授業の中で、児童が主体となって、課題を見つけたり解決したりする学習活動を取り入れるようにする。【毎時間】 校内研修において、指導者を招くなどし、教員が自立学習に対する知見を高められるようにする。【学期に1回以上】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	A	<ul style="list-style-type: none"> 業前の基礎学力タイムを有効に活用し、学習の機会を確保した。その中で「ドリルパーク」等を活用し、個別対応をすることができた。また、それぞれの教員が、校内研修として、一人一授業を行い、授業公開を行った。公開授業において教材研究、個別の研究協議等を行うことで、教員の指導力向上を図ることができた。 今年度、校内研修において、ICT活用した授業展開を研究したり、講師を招き授業発表・協議会を開催したりすることで、日々の授業でもICTを活用した授業展開が増えた。そのことで、ICTを活用し情報収集する学習が増え、児童のより深い知識の習得に繋がった。
思考・判断・表現	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修において、指導者を招くなどし、教員が自己調整学習に対する知見を深められた。 自己調整学習に取り組ませることで、児童が主体となり、課題を見つけたり解決したりする学習時間を取り入れることができた。また、発達段階において、教師が適切な支援を行うことで、個別最適化の学習となった。

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 国語、算数、理科において、全体的に正答率が十分高く、知識・技能の資質能力の高さが伺える。反して、正答率、または回答数が極端に低い児童も見受けられることが、今後の指導の課題である。 算数における図形の特性や定義に関する問題(4学年)、また理科の電気を通す物質や磁石につく物に関する問題(3学年)の正答率が低い。このことは、既習事項が定着していない可能性があると考えられる。 アンケート調査結果から、今でも、PCやタブレットを学校の授業等で多く活用している実態があり、本校児童のICT機器活用能力は高い傾向にあると伺える。 	
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 国語、算数における記述形式における正答率が県平均、全国平均より高く、全国的に見ると思考・判断・表現における資質能力の高さが伺える。しかし、本校における国語、算数の平均正答率の中では、記述式の正答率が他の正答率と比べると低いことが分かった。このことは、記述式の問題への不慣れがあると考察される。 本校の正答率は県、全国平均より大幅に高い。また、算数と理科においては知識・技能と思考・判断・表現の平均正答率の開きが小さい。このことは、本校児童の算数、理科における思考・判断・表現の力が全国の傾向より高いと言える。 	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> どの学年、教科においても「平均正答率・平均正答率」は、さいたま市の平均を上回っていることから、基礎学力の定着が見られる。特に漢字の正答率が高い(90%を超えている)。 生活調査における、自己肯定感の高さが伺え、学習において苦手意識が少なく、学習に取り組んでいると推測され、学力に繋がっていると考えられる。また、問題の存在する時間が長いことから粘り強く取り組んでいることがわかる。 3桁同士のかけ算の筆算に多くの時間がかかっていることから(平均150秒)、計算の技能向上が求められる。 高学年では、政治に関する興味が高い傾向が見られることから、政治にまつわる正答率の高い結果に繋がったと考えられる。 得点の分布から、国語における文法(主語、述語)が苦手であることが分かる。 	
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 主語述語、文章の読み取りに関しては、さいたま市の平均よりも上回っている。また、文章の読み取りも3%上回っている。このことから、文章を読み取り、表現する力の定着が見られる。 国語において、文章の構成に関しては、話の中心を得て文を書くことが苦手であることが分かる。3年生「話す・聞く」がやや平均を下回っている傾向があった。また、算数における場面と図を式にすることが苦手であることが分かった。 得点の分布から「相手に伝わるように、理由や事例などを挙げて、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。」が苦手であることが分かる。 読書に対する気持ちが、学年が上がるにつれて、肯定的ではなくなっていることが特徴として分かり、指導の参考にしていきたい。 	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修における研究授業において、リーディングDXを意識した授業改善を行っており、全校にICT活用能力は向上している(校内研究授業1回)。 個別の支援や、学習の定着のために毎週の「基礎学力タイム」や日々の授業の中で「ドリルパーク」等を活用することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も校内研修において、ICT活用した授業展開の授業を研究し、授業発表・協議会を開催していく。また、一人一授業等を通し、全教職員が指導力向上に取り組む。【今年度を通して行う】 今後も、個別の支援や学びの定着を図るために、特定日の業前に行う基礎学力タイムや授業内において「ドリルパーク」等を活用する。【毎週】
思考・判断・表現	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、児童が主体となって学習に取り組めるために、意図的に児童に学習活動を進める時間を設けるなど、自己調整学習を発達段階に考慮して取り入れている。また、その中で「学びの手引き」を活用し、児童が学習の見直しをもてるようにした。 校内研修において、有識者や教育委員会から指導者をお招きし、リーディングDXの研修を深めた(1学期3回)。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も児童が主体となり、課題を見つけたり解決したりする学習時間を取り入れるとともに、発達段階においては自己調整学習にも取り組んでいく。【毎時間】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)